

Title	登山者の知識が高山植物の貨幣価値決定に与える影響 ： 白山国立公園における高山植物保全を事例として
Author(s)	寺田，潤哉； 敷田，麻実
Citation	第24回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演 要旨集： 119-119
Issue Date	2018-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16910
Rights	Copyright (C) 2018 「野生生物と社会」学会. 寺田潤 哉, 敷田麻実, 第24回「野生生物と社会」学会大会プ ログラム・講演要旨集, 2018, p.119.
Description	

**登山者の知識が高山植物の貨幣価値決定に与える影響
-白山国立公園における高山植物保全を事例として**

**The contribution of knowledge to the evaluation of economic value of natural resources
-A case study of climbers for alpine flower conservation at Hakusan National Park**

寺田 潤哉・敷田 麻実

Junya TERADA, Asami SHIKIDA

近年、日本の国立公園管理にかかる予算は年々減少傾向にあり、十分な管理ができていないことが指摘されている。管理された公園という「施設利用」の観点から、管理に必要な費用を受益者が一部負担するという受益者負担の提案があるが、負担に対する意識や負担の許容度は明らかにされていない。しかし、受益者負担政策に協力を得るためには意識や許容度の把握は重要である。そこで本研究では、固有の名前が付けられた高山植物が多いことで有名な白山国立公園を事例に、高山植物の保全活動に対する登山者の支払意志額を明らかにし、支払意志額に影響を与える知識と、その獲得過程を明らかにすることを目指した。仮想評価法(CVM)を用いたアンケート調査を実施し、フルモデル分析を行った結果、知識量の異なる登山者が示す支払意志額の間には統計的な差が見られた。その知識とは、高山植物の名前と特徴についてである。一方、これらの知識の獲得過程と支払意志額に関連はみられなかった。